

平成 30 年 9 月 3 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370114

研究課題名(和文) 昭和期 軽演劇 の上演に関する調査・研究

研究課題名(英文) Research about the performance of Kei-engeki, Japanese light comedy, in the Showa period

研究代表者

中野 正昭 (Nakano, Masaaki)

明治大学・文学部・兼任講師

研究者番号：40409727

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、昭和期に隆盛をみせた 軽演劇 を対象に東京を中心とする約40の諸機関での資料の調査・収集、関係者や遺族12人への聞き書き等の基礎調査を行った。また一次資料に基づく軽演劇の代表的劇団の上演年表を作成し、各劇団の変遷、作品傾向を考察した。さらに一部の作品の上演分析を行った。

新たに発見した資料に軽演劇作家・水守三郎資料(未発表小説、台本、日記、舞台写真等)、伊馬春部が九州の軽演劇関係者へ送った書簡、コメディアン鈴木桂介自筆回想ノート、写真「ロイヤル館外観」「戦後ムーラン・ルージュ新宿座外観」「戦後ムーラン・ルージュ新宿座舞台」「日劇ミュージックホール舞台」「虹鉢座舞台」等がある。

研究成果の概要(英文)：This research project is about Japanese light comedy which showed prosperity as a genre of stage entertainment in the Showa period. In the research project, I investigated the document about the light comedy with approximately 40 engines, mainly Tokyo, and had interviews with related people and bereaved families. I made the performance chronological table of some famous companies based on a primary document, and clarified the history of the company, a work tendency. Furthermore, I analyzed some works.

In the document which I discovered newly, there are a light comedy writer, Saburo Mizumori's unpublished novel, diary, stage photograph, the letters from Harube Ima to a fellow trader in Kyusyu region, a comedian Keisuke Suzuki handwriting recollection notebook, the photograph "Royal-kan appearance" "postwar Moulins rouge Shinjuku-za appearance" "postwar Moulins rouge Shinjuku-za stage" "Nichigeki music hall stage" "Abuhachi-za stage".

研究分野：演劇学

キーワード：軽演劇 喜劇 大衆演劇 大衆文化 モダニズム

1. 研究開始当初の背景

欧米のステージ・ショウ(コメディ、ヴァラエティ、レビュー、ミュージカル等)の影響を受けて誕生した日本の「軽演劇」は、戦前・戦中を通じて大衆的な演劇ジャンルの一つとして発展し、戦後は演劇に留まらず隣接メディアの映画・放送、なかでもテレビに関して多数の作品(ドラマ、バラエティ等)と人材(作家、演出家、俳優、歌手等)を提供した。現在の大衆娯楽文化の一つの雛型を創出したと言える。

歴史的にみた場合、軽演劇の登場と発展は、19世紀後半から20世紀にかけて欧米で本格化する大衆文化運動の流れに沿うものであり、特に戦前から戦後へと連続するアメリカニズムの大衆的受容という点に於いて、舞台娯楽での「昭和モダニズム」「大衆モダニズム」の表象化だった。

既に文学・映画等の隣接する研究分野では「昭和モダニズム」「大衆モダニズム」の観点から同時代の大衆文化の研究が盛んになされ、充実した成果の蓄積が進むと共に、広く「日本の近代文化史研究」に体系的な視点を与える貢献がなされている。

一方、演劇の分野では「昭和モダニズム」「大衆モダニズム」という視点そのものが必ずしも確立されていない。過去の軽演劇研究に関しては、主に演劇評論家や作家による一般書の形で進められてきており、内容的には通史・概説に留まり、資料的には執筆者や関係者の体験・回想に拠るところが多い。一般に流布した通説が無検証のまま繰り返され、基本的な事実関係の誤りが修正されずに継承される例も少なくない。商業演劇・大衆演劇に携わる研究者の数が限られていることもあり、隣接する研究分野に比して研究状況は充分とは言いがたかった。

こうした状況に対し、諸機関が所蔵する軽演劇関連資料の状況を調査・収集し、また関係者への聞き書きを行うことで、一次資料に基づく「軽演劇」の基礎研究を行い、さらに演劇に於ける「昭和モダニズム」「大衆モダニズム」研究を発展させる必要性を感じた。

2. 研究の目的

本研究は、昭和期に大衆的な人気を博した「軽演劇」の主要な劇団・作品・人物に関する歴史資料を体系的に調査・収集し、一次資料に基づく主要劇団の上演記録の作成、代表的作品の上演分析を行うことで、軽演劇の基礎資料の充実を図ること、演劇ジャンルとしての「軽演劇」の特徴を明らかにすること、日本の近現代演劇史及び大衆文化史の中で「軽演劇」を定位すること、以上の三つを目的とした。

特に資料面に於いては、申請者が過去に発見・入手した新資料と新たに収集した資料を

もとに、実証的に検証・分析を進め、従来流布してきた事実関係の誤りの修正、通説の再検証、翻刻を行うことで軽演劇を含む商業演劇・大衆演劇全体の基礎研究の深化を目指した。

3. 研究の方法

本研究は、研究期間で以下の3つの方法を取った。

東京の諸機関・関係者に於ける軽演劇関連資料の所蔵調査

過去の調査・研究の過程で、軽演劇関連の一次資料(プログラム、自筆台本、上演台本、写真、ノート等)が日本各地の図書館・文学館・郷土資料館等に点在して所蔵されていることが分かった。また関係者の遺族が所有する資料も、現在では孫・曾孫の代となっており、諸機関への寄贈や古書店等への処分を検討している場合が多い。そこで本研究では、主に東京の諸機関で実地調査を行い、また遺族に対しては演劇博物館等の適切な寄贈先を紹介しながら資料の散逸防ぎ、可能な限り体系的な資料状況の把握と収集を行う。

主要劇団の上演記録作成

軽演劇団は浅草の小劇場・小資本興行会社に属したものが圧倒的に多く、どのような劇作家・演出家・俳優が所属し、どのような作品をいつ上演したかという基本情報の不足・欠落が顕著である。一次資料等に基づく、重要な軽演劇団の上演記録を作成する。

上演内容分析

の主要劇団の中から代表的作品を選び、台本・舞台写真・音源・映像・劇評等から多角的な上演分析を行い、内容を明らかにする。

4. 研究成果

研究期間の間に東京・神奈川・埼玉の約40の機関で調査を行い、適時資料を収集することができた。また平成28(2016)年度にはNHK番組アーカイヴ学術利用トライアル2016年度第1期採択研究「映像資料による興行街浅草と大衆芸能・演劇の表象に関する研究」(代表:細井尚子)の研究分担者となり、放送資料(テレビ、ラジオ)の調査を並行して行った。

ただし一部の機関では、資料整理が未完だったり、あるいは閲覧・複写体制が整っていないとの理由から十分な資料調査・収集ができない場合があった。特に整理については、年代の特定が難しい、スクラップブックに貼られているので個々の具体的資料まで把握できていない等の理由から演劇関連資料のみが整理不十分な状況が目立った。こうした現状にどう対応するかを今後の新たな課題として得た。

遺族等への個人調査では、カジノ・フォーリーの文芸部員だった水守三郎の遺族の協力により、未発表小説、台本、日記、写真等を発見することができた。カジノ・フォーリー関係者の資料は、その多くが散逸・処分されているため、これは貴重な発見となった。また同資料は、これまでは俳優中心に語られやすかった軽演劇を脚本家の側から考察する上でも重要である。

他に新たに発見・入手した主な資料として、コメディアン鈴木桂介自筆回想ノート（戦前・戦中の古川緑波一座在籍時代の思い出を綴ったもの）、伊馬春部書簡（九州の軽演劇関係者に宛てたもの）、写真「ロイヤル館外観」「戦後ムーラン・ルージュ新宿座外観」「戦後ムーラン・ルージュ新宿座舞台写真」「日劇ミュージックホール舞台写真」「蛇鉢座舞台写真」等がある。

聞き書きは関係者、その遺族等 12 人に対して行った。

調査・収集に関しては、当初の目的は大凡達成できた。

上演記録の作成は「カジノ・フォーリー」「プベ・ダンス」「古川緑波一座」「ピエル・プリヤント」を中心に作成した。一部の不明はあるものの、各劇団の変遷、作品傾向、不詳だったスタッフなどを把握することができた。

研究成果として雑誌論文 12 件、学会発表 5 件、図書 8 件を出した。特に日本・台湾・中国・韓国の研究者による大衆演劇に関する国際シンポジウムへの 3 度の参加、英語による日本演劇史書での「軽演劇」項目の執筆など海外研究者との連携や研究発信できたことは、今後の研究へも繋がる大きな成果の一つとなった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 12 件)

中野正昭、奮闘！『乞食芝居（三文オペラ）』上演顛末記、神奈川芸術劇場プロデュース『三文オペラ』パンフレット、2018、pp.42-43

中野正昭、啞蝉坊の歌の魅力 演歌のなかに見え隠れする民衆史のダイナミズム、読書人、3210 号、2017、p.8

中野正昭、博多中洲地区の劇場と軽演劇興行、「近代日本」空間下の東アジア大衆演劇 論文集、2017、pp.138-150

中野正昭、近代の意味の再考を促す 日本に於ける前衛主義の目覚めに迫る、読書人、3178 号、2017、p.10

中野正昭、ムーラン・ルージュ新宿座と東アジアの娯楽文化交渉、なじまあ 親しみ深きアジア Accessible ASIA、No.07-2017、2017、pp.10-11

中野正昭、特別な<時代>とその只中で青春を送った<青年>の物語、読書人 3153 号、2016、p.6

中野正昭、虚実を見極め、修正を施す、図書新聞、3255 号、2016、p.8

中野正昭、帝国劇場女優劇 女優の登場にみる日本の近代演劇の形成、跨越時空的歌聲舞影 女性戯劇研討會論集、2016、pp.90-100

中野正昭、書評/長谷川康夫著『つかこうへい正伝 1968 1982』、読書人、3126 号、2016、p.6

中野正昭、書評/橋本裕之著『芸能的思考』、読書人、3105 号、2016、p.6

中野正昭、ムーラン・ルージュ新宿座 昭和芸能史の交差点、新宿くまもと物語「わが青春のムーラン・ルージュ」パンフレット、2015、pp.14-16

中野正昭、書評/渡辺保・高泉淳子著『昭和演劇大全集』、演劇学論集、60 号、2015、pp.170-174

〔学会発表〕(計 5 件)

中野正昭、博多中洲地区の劇場と軽演劇興行、国際シンポジウム「『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇」、2018

中野正昭、従表演方法切入「女優」的近代定位--以帝劇女演員森律子為研究對象--、東亞大衆戯劇國際學術研討會、2017

中野正昭、ある学生エキストラからみた築地小劇場 新資料「水盛源一郎『小説築地小劇場 築地の人々』」をもとに、日本演劇学会・全国大会、2016

中野正昭、常設興行からみた浅草オペラ、公開シンポジウム『浅草オペラの音楽・舞踊・演劇』、2015

中野正昭、帝国劇場女優劇 女優の登場にみる日本の近代演劇の形成、跨越時空的歌聲舞影 女性戯劇研討會 2014 International Conference of Female Drama 2014、2014

〔図書〕(計 8 件)

日比野啓・編、日比野啓、神山彰、長崎
励朗、宝田明、鈴木理映子、中野正昭、
鈴木国男、戦後ミュージカルの展開、森
話社、2017、392 (pp.275-330)

丸本隆、荻野静男、佐藤英、佐和田敬司、
添田里子、長谷川悦郎、東晴美、森佳子・
編、大崎さやの、大西由紀、岡本佳子、
奥香織、北川千香子、嶋内博愛、中野正
昭ほか、キーワードで読む オペラノ音
楽劇 研究ハンドブック、アルテスパブ
リッシング、2017、452 (pp.351-355、
pp.356-359、pp.360-362、pp.368-371、
pp.372-377)

杉山千鶴・中野正昭・編、中野正昭、上
野房子、大西由紀、笹山敬輔、小針侑起、
杉山千鶴、京谷啓徳、毛利真人、浅草オ
ペラ 舞台芸術と娯楽の近代、森話社、
2017、296 (pp.7-22、pp.187-230)

Jonah Salz 編、Masaaki NAKANO
ほか、History of Japanese Theatre,
Cambridge University Press, 2016,
589 (pp.226-229 、 pp.454-462 、
pp.480-482)

大笹吉雄、岡室美奈子、神山彰、扇田明
彦・編、日本戯曲大事典、白水社、2016、
1020 (軽演劇を中心に 24 項目を執筆)

中野正昭・編、中野正昭、吉田弥生、濱
口久仁子、倉橋滋樹、杉山千鶴、原健太
郎、京谷啓徳、神山彰、赤井朋子、萩原
健、日比野啓、細井尚子、ステージ・シ
ョウの時代、森話社、2016、400(pp.7-38、
pp.161-214)

古川緑波、谷崎潤一郎、徳川夢声、正岡
容、立川談志、色川武大、矢野誠一、安
藤鶴夫、紀田順一郎、岸田國土、中野正
昭、原健太郎、古川ロッパ 食べた、書
いた、笑わせた！ 昭和を日記にした喜
劇王、河出書房新社、2015、180
(pp.144-150、pp.177-179)

神山彰・編、神山彰、星野高、みなもと
ごろう、中野正昭、横田洋、日比野啓、
水落潔、商業演劇の光芒、森話社、2014、
373 (pp.157-186)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
中野正昭 (NAKANO, Masaaki)
明治大学・文学部・兼任講師
研究者番号：40409727

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4) 研究協力者
()